

科学の街「つくば」からサイエンス・インフォメーション (協力:つくば市OB人材活動支援デスク)

エルヴィス・プレスリーの ビジネス伝説

プレスリー研究者

鈴木 一 彰

経歴 1949年 札幌出身
映像作家として多数のVP(企業ビデオ)を制作する一方、大映ビデオ「帰ってきたナガシマ」を監督するなどビデオ映像の世界で活躍
1980年代には熱狂的なプレスリーファンとして、ファンクラブの会報を編集
1990年 別冊太陽 ELVIS(平凡社)を執筆
2004年 ロカビリーミュージカル「エルヴィスを夢見て」制作・演出
2005年 「エルヴィスを夢見て」(愛育社)執筆
ミュージカル「青春カーニバル」制作・演出
2013年 常陽藝文センターにて「プレスリー講座」を開講し、現在も継続中

1. ロックンロールの誕生

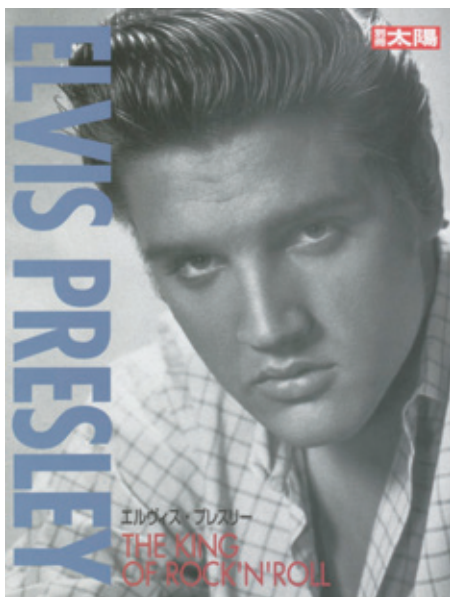
日本の昭和30年代は、ラジオの音楽番組「S盤アワー」や「L盤アワー」からアメリカン・ポップスが流れアメリカへの憧れに心ときめかせた時代でした。

なかでもアメリカといえばエルヴィス・プレスリーが象徴でした。リーゼントに長いモミアゲ、ロックンロール(日本ではその当時“ロカビリー”と呼ばれていた)をひっさげて登場、「ハートブレイク・ホテル」や「ラヴ・ミー・テンダー」「監獄ロック」などで日本の若者音楽に影響を与えました。

エルヴィス・プレスリーが登場した1950年代のアメリカは、黄金の50年代と言われ、一般家庭の平均収入がヨーロッパの家庭の15倍、経済力も景気も右肩上がり、アメリカ史上稀に見る好景気に湧いていました。

そんな時代、アメリカ南部テネシー州メンフィスという地方都市で歌手を夢見る一人の若者がいました。10代のエルヴィス・プレスリーです。家は貧しく、両親は共稼ぎ、公営住宅に住み高校へ通い、卒業すると電気会社のトラック運転手になりました。

エルヴィ



別冊太陽 「ELVIS PRESLEY」

スは歌手になる夢を追い、地元の小さなレコード会社に4ドルを払い自費でレコードを作りました。これがきっかけでレコード会社の社長に認められ、自らプロ歌手への道を切り開いたのです。

1954年7月5日、スタジオ録音で、エルヴィスはこれまでにない新しいスタイルの音楽を作り上げ、これが“ロックンロール誕生の瞬間”と言われ、今年にはロックンロール誕生60周年に認定されています。

その新しい音楽を地元の若者達が受け入れ、エルヴィスは南部を中心にコンサート活動を開始します。どこへ行っても女の子達の反応は凄まじく、エルヴィスのルックスの良さとステージでの激しい動きに彼女達は金切り声を上げました。

しかしまだローカルでの人気でした。

2. 凄腕のマネージャー

各地で熱狂的な反響を巻き起こしている若者の噂を聞き、エルヴィスの前に一人の男が現われます。名前はトム・パーカー、ずんぐりむっくりの中年男、葉巻をくわえ、自らを“パーカー大佐”と呼んでいました。“大佐”は興行界で活躍したために与えられた称号でした。

出生地は不明、以前はカーニバルで働いており、その業界では伝説的な人物です。

ある日カーニバルの会議で入場料を50セントから25セントに下げの話が行われました。反対したのは大佐ひとり、他の関係者は大佐と口論しました。

そこで大佐は1日だけ自分の言うとおりにやらせてくれないかと頼みました。大佐がなにをやったかという、入り口に“入場料は1ドル。ご満足いただけない折には、入場料の半額をお返しします”という看板を出したのです。



デビュー当時のエルヴィス (EPE)

もちろん、入場者はお金が返ってくるわけですから誰もが不服の意を申し立てをして、半額の払い戻しを受けました。しかし、これが評判となり入場者はたちまち増えたのです。入場料は下げずに済み、そのまま1ドルで通しました。

人はパーカー大佐をこう呼びます。「アイデア・マン」「芸術的詐欺師」「筋金入りのビジネスマン」「ギャンブラー」等々です。

この大佐がエルヴィスに「君の100万ドルの才能を私が現金に変えてみせる」と豪語し、マネージャーを買って出たのです。

3. スター・ビジネスの革命

1956年、大佐は大手のRCAレコードに4万ドルを払わせエルヴィスを移籍させます。移籍第一作の「ハートブレイク・ホテル」は世界的に大ヒット、エルヴィスの出すレコードはミリオン・セラーを連発し、これまでの音楽業界全ての記録を塗り替えます。

さらにエルヴィスによって新たな産業が生まれ、アメリカ経済を押し上げました。

レコード業界の売上げが増加し、若者はレコード・プレイヤーを買い求め、それは若者の必需品となりました。それまで音楽を聴くのはラジオが主流だったのですが、ジュークボックスの需要も全米に広がりました。

エルヴィスが好んで黒人のリズム&ブルースを取り上げるので、黒人音楽の関心が高まり彼らのレコードも売れるようになりました。

ビルボード誌は「プレスリー人気に付随して、プレスリーのビッグ・ヒットにつられて全てのレ

コードが売れるようになった」と書いています。

エルヴィスのようにギターを弾くのは男らしいとされ、ギターの売り上げも天文学的な数字となりました。

パーカー大佐とエルヴィスは、スターの肖像権の商品化にも革命をもたらしました。今では当たり前になっていますが、スターの名を冠した新たな商品を次々と開発していったのです。

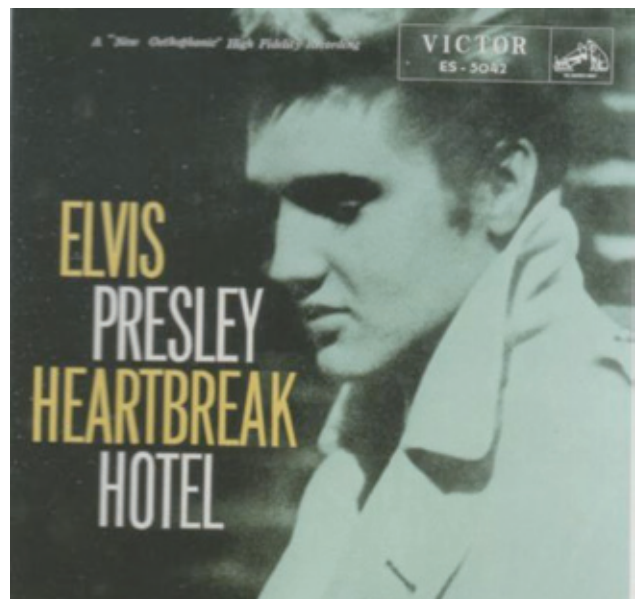
エルヴィスの名前と写真が載った靴下とシューズ、その上にはエルヴィス・プレスリー・スカート、ブラウス、ブルー・ジーンズ、パジャマ、エルヴィス・プレスリー・バミューダ・ショーツまでありました。さらに化粧品、人形、文房具やおもちゃ、家庭雑貨まで含めると78種類もありました。

売上げは一年間で5,500万ドルに達し、エルヴィスと大佐には製造小売価格の8パーセントの印税が支払われ、21歳にして億万長者となりました。

エルヴィスが亡くなって今年で37年、エルヴィスの産業は今もアメリカで生き続けています。毎年「フォーブス」誌が発表する故人の所得ランキングでは、常に50億円近くで3位以内に定着しています。

未だに売れ続けているエルヴィスの音楽、著作権や版權ビジネス、故郷メンフィスにある「グレイスランド」(エルヴィスの邸宅)の観光ビジネスなどの収益です。

それは歌手になることを夢見た一人の少年が、その実力と幸運で掴み取ったアメリカン・ドリームの象徴でもあるのです。



「ハートブレイク・ホテル」のレコードジャケット (EPE)

■この「つくばのシニア人材紹介コーナー」は、つくば市が2008年度から推進している「つくば市OB人材活動支援事業」に登録されている研究者・教育者の方々より寄稿を受けて作成しています。現役を一旦引退されてもいつまでも社会発展の牽引力となって活躍をされている方々の研究実績や業務経験の一端をご紹介させていただくものです。